鈴木商店破綻後は日商に入り、昭和十年頃は東京支店（支店長は下坂さん）に勤務していたが、当時、渋谷倉庫本社に勤務するようになっていた私は、業務の関係で屢々同支店を訪れ、その都度日野君に会って外電部時代の懐旧談などしたものであった。その後戦争でお互の消息も絶え、遂に会う機会もなかったが、君の温容は今も彷彿として私の心に生きている。

前記の五君に共通して云えることは、皆同じ位の年輩で親しい級友のような間柄であったこと、そして皆真面目で仕事に熱心であったことである。当時のあれこれを回想しながら、この小文を書くにつけても、彼等が今も元気でいてくれたら……と実に痛惜の情に堪えない。心から冥福を祈って筆を擱く次第である。

鈴木よねの活躍した頃の事

鈴木慶子

鈴木よねは嘉永五年八月（一八五三）姫路市に漆問屋西田仲右衛門の三女として生れた。若いころからの剛気の性格は一生抜けることはなかった。明治七年、神戸市の鈴木商店主岩治郎に嫁し、夫亡きあとは一手に店を切りまわし、大正十年、資本金八千万円にのしあがる。その間、神戸製鋼所、帝人、日商とさらに四十数社の総合会社を創設し、当時、三井、三菱をしのぐ勢いであった。そして、昭和二年、バニックで、やがて閉店などの憂目を見たが、昭和十三年、八十七歳で大往生するまで、短歌などをたしなみ、悠々自適の生活をおくった。私の祖母である。

（鈴木治雄氏夫人 JUNON 十二月号に掲載のもの）

日沙商会時代の思い出

竹崎茂助

先般の〝たつみ〟十八号に、私の随筆〝大正時代の神戸製鋼〟が、柳田義一氏のご厚意に依って掲載されたが、今回は首題の投稿致します。

私が神鋼呉出張所に在勤中の大正十一年正月、神鋼専務で日沙商会社長、依岡省輔氏が来呉され、宮田岩吉主任（現在尚親交深い先輩）を通じて私の日沙商会転勤を要望されたが、過ぐる大正九年春、私が神鋼東京出張所へ転任の際にも同社近藤正太郎氏（後年私最大の恩人）から、日沙入社を懇望されたが、私は将来鉄鋼関係で身を立て度く、ゴム事業には関心が薄かったので心ならずも辞退したいきさつが有り、最早や拒む術が無かった。

尤も当時八々艦隊達成の為、国家総予算の半分は軍関係、そして尚其半ば以上が呉工廠関係であったが、例のワシントン軍縮会議で惨たんたる結果を招き、工廠所在地もまるで火の消えた観となった直後であった。

私が来神して近藤氏（支配人）に面談、ゴム事業の外に珍しいファイバー製造を始めたこと、そして其加工者、大阪末広鉄工所主、佐藤順蔵氏の話など聞かされ大いに興味を湧かし、結局入社を承諾し其年三月、ゴム部（タイヤー部を除く）及びファイバー部の販売主任として来任した。満二十四才であった。

呉では鈴木商店出張所と同一事務所で、主任武藤作次氏や、現神戸の辰巳興業社長、山崎敏明氏等とも同居、親交厚かった。

私の日沙転任に対し、神鋼営業部長（後の播磨造船社長）松尾忠二郎氏が怒って〝近藤は人間泥棒だ！彼が来ても金網張って中へ入れるな〟と怒号されたと聞くが、何分バックに巨人依岡が控えているので其儘終結した。

日沙商会へ来任した当時は取締役西川玉之助（後年東洋ファイバー社長）ファイバー部技師長楠瀬時治、ゴム部技師長野村敬氏等で（〝たつみ〟十九号足立宇三郎氏の〝鈴木商店のゴム事業〟）随筆に詳記されて居り私も讃辞まで受けて恐縮している。

入社当時の月商は、ゴム部約一万三千円、ファイバー部約八千円程度であったが、其後ゴム部は日本輪業へ移り、私はファイバー部専業となったが、売上は月々急激に増加して何時しか月商五万円を超え、私は近藤支配人に要望して従業員一同を琵琶湖一周旅行を催して貰った。

其恩人近藤氏も昨年秋惜しくも長逝されたが、高知市切っての名門に生れ、其令姉は日本海々戦に偉勲を樹てられた、後の海軍元帥男爵、島村速雄閣下の夫人で、海軍部内切っての麗人であった。

近藤氏の中学時代の無二の親友、土居英成氏は私が高等小学生の時、特に選んで神鋼へ入社の配慮を下さった恩人で、後年鈴木商店庶務主任となられた人格者である。

又近藤氏は神戸高商第六期の卒業生であるが、同期卒業者は実に傑物者揃いで、奇妙な事に私と関係の深い人が多く、特に椿本説三氏（椿本チェーン、椿本興業の創設者で、ファイバー代理店）杉田繁治氏（紡績用ケンス代理店で私達夫妻の媒酌人）吉村蚊氏（神戸高商、東京高商専門共一番の商学士で、神鋼販売係に於て机を竝べた秀才）等の先輩者である。

扨てファイバー受注額が漸次伸びた原因の一つ、国内の紡績工場は男女を不問、八時間三交代二十四時間の労働であったが、各国の厳しい非難で結局深夜業廃止となった為、各社共一挙に設備の増大を計り其結果ケンスの需要もそれに比例して激増した。又、豊岡地方の柳行李（年産約四百万円）に対抗してファイバー製鞄の発展に努力、年々需要増大し遂に柳行季を遙かに上廻った。尚ファイバー製箱類の拡大にも力を注ぎ、紡績は素より、郵便局や百貨店等の受注も増加一方であった。

そして唯一の同業者、東京帝国堅機（三井系統）との競争も関西では圧倒的優勢を誇ったが、流石に関東地方は地の不利から充分手が届かず、私は遂に意を決して東京出張所を新設し、自ら之れに当らむと万端の準備を整えた折柄、例の関東大震災に遇い、転居寸前の神戸へ帰って来たが、実に本年で満五十年の半世紀前の昔話となった。

稍々横道へ外れるが、ファイバー加工の功労者、前述の佐藤順蔵氏に就いて述べるが、同人は私が日沙入社当時既に五十余才。身長五尺、風貌又上らぬ生粋の江戸っ児。弱年で呉工廠へ入り、間もなく選ばれて英国へ派遣されて満三ケ年の修業、機械・科学・電気其他に就いて蘊奥を極めて帰朝。当時の呉工廠長で海軍切っての利け者、山之内中将の秘蔵っ児となり、日本海々戦の直前、工廠内で寝泊りしつつ十二吋の巨砲、その他を完成した。東郷元帥如何に偉人たりとも、大砲が無かったら！とさえ思う。尚池貝鉄工所設立者、池貝庄太郎氏とは親しい同僚関係であった。

私の切なる懇望に依り、日沙ファイバー加工場（鈴木の工場発祥地、神戸小野柄通り）を設け、其主任として、午後出社していた。

或る年依岡社長が、南洋ボルネオ島サラワックの自社ゴム園及び園内に在る依岡神社参拝を兼ねて渡航された。

サラワックは当時の国王より三代前の英人が、ぶらり入国した際、丁度源平の戦いの如き内乱最中で、其英人が乞われて一方に就き相手を撃破した結果、国王第一世となった。

そして第三世（後年日沙招待で来日）の或る時、依岡社長の令兄省三氏（私が神鋼入社の年京都で病歿され拝眉の機会は無かったが身体、度胸共尚令弟を上廻っていたと聞く）が、これまたぶらりと入国、絶対他国人には土地を貸さない国王が〝何処でも好きな土地を貸す〟と断言。首都クチン近くをゴム園として半永久的に借受け、帰朝後、金子氏が一切の援助を確約した。

後年名を日沙商会として創立、省輔氏が同兄を祀って〝依岡神社〟を建設した。

扨て其帰途、シンガポールで近藤氏と落合い、共に欧米を廻る計

画を樹て、近藤氏が金子氏へ懇請したが、当時の対銀行関係の事情で不許可となった。然しまさかと思った近藤氏が着々準備を整え、愈々出帆二日前、最後の申出でも案に相違して駄目であった。

此時近藤氏が〝佐藤を遣ったら！〟との進言に対し、金子氏は即座にOKした。平素ファイバーに興味を持ち、且佐藤の真価を十分識っていた結果である。

さあ大変！第一渡航許可書（鈴木の力で入手）写真（一枚も無い）背広服（一着も無く金子氏のを借受け）等々、大変な騒ぎで、遂に出帆に間に合わず、汽車で追駈けて門司から辛うじて乗船した。世界一周二日前に決定など前例が有るであろうか？

扨てファイバー部は、其後何年かの後問題の東京出張所を新設。石川透君を主任とし大口引合いの都度私が上京したが、或時紡績からの照会に対し上京、引合先で偶然、唯一の競争相手帝国堅機の取締役営業部長岡田與吉氏（後年無二の親友となる）に出会い、三人で昼食を共にしながら、岡田君から熱心な合併の申出が有った。

帰神後金子氏に面談報告の結果〝合併すれば結果の好い事は当然だが、銀行関係が有るので当分双方で話合って受注を決めよ〟との命令が有り、岡田、竹崎両人一週間交代で、上京又は下阪したのが満三年続いた。そして昭和九年三月、遂に合併成立、私が提案した東洋ファイバーの名に依って出発。私は役員（後常務）に推せんされ、新設大阪支店を担当した。

そして私が強調した金五万円也、帝堅より日沙商会へ提供の条件が成立実行後、互に両工場を見せ合ったが、之れはしたり、帝堅の方が寧ろ設備其他が充実しており、私は金子氏より恩賞金五千円を頂いたが、当時優に借家が二軒建った。合併後の成績優秀は素より当然、寧しろ毎期の超多額利益の処理に頭を悩ました。

其後不幸な太平洋戦争も、日増しに我国不利一方となり、昭和二十年三月、神戸工場、同五月神戸加工場の両工場が跡かたも無く全焼して私も遂に退社。明治四十四年以来、長かった鈴木商店傘下の事業とも遠ざかって今日となった。（元、東洋ファイバー㈱）

◆原稿募集

内容　随想、和歌、詩、俳句、絵画、写真、鈴木時代の思い出等。原稿用紙四百字詰五枚程度。

締切り　昭和四十九年五月末日。

送り先　〒650 神戸市生田区京町七二 太陽鉱工KK内「たつみ」編集部宛

◆辰巳会々員名簿作成予定

旧名簿は最近会員の移動、住居番号等の変更甚だしく会員諸兄に不便をおかけしていることと思いますので本年中旬頃迄原稿整備の上お手許に届くように致します。

尚転居、住居番号、電話番号等変更の方は何卒至急本部迄御知らせ下さい。

◆金子直吉翁三十年祭案内

本年は翁の逝かれて三十年に当りますので、新年会と併せて、新装に成る四層造りの生田神社会館に於いて祭典厳修することに致しましたからお誘い合わせ御来詣下さるようお勧めします。

昭和四十九年度

米寿盃（銀盃）贈呈者

（明治二十年生）

上垣兼太郎　永井幸太郎
東条　順吉　佐々木義彦
溝口　新平　戸坂　隆吉
小栗　　正　西村初太郎
高畑　誠一　多賀　二夫

喜寿大盃贈呈者

（明治三十一年生）

谷山　竜馬　石田　俊一
佐橋淳一郎　籾谷　茂信
宗　　真足　小樋井正夫
網干　尚明　大津房太郎
大柳勇三郎　八十川栄治
山地　　保　阪上忠次郎
松本　　通　清野　勝雄
高橋　俊彦　杉山　　茂
橋本時二郎　武部　政雄
廣岡　一男　池　　武猪
村井　順三　坂田　重保
柳田　義一　富川　顕
石野昔士郎　塩谷　房次

非鉄金属・特殊金属
特殊鋼とその原料
キンキメタル産業株式会社
取締役社長　堀内宏展
本　社　大阪市福島区上福島中1丁目38の2 TEL 代表458-5961
東京営業所　東京都千代田区神田北乗物町12 TEL 代表252-0541
大阪工場　大阪市西淀川区佃4丁目6番22号 TEL 代表473-5031
熊谷工場　埼玉県熊谷市三ケ屋字女堀5408の1 TEL 代表 32-6811

日塩株式会社
東京都千代田区丸ノ内2丁目6—2
電話　東京 03（281）3101（代）
・支店　東京　横浜　名古屋　神戸
・倉庫　東京　横浜　名古屋　神戸　四日市
・出張所　札幌　仙台　金沢　四日市
・営業所　横浜本牧埠頭

ケミカルタンカー
國華産業株式会社
取締役社長　大久保延造
本　社　大阪市北区堂島浜通1丁目63番地 TEL（06）344-5626（代）
東京事務所　東京都港区芝西久保桜川町28番地 TEL（03）504-2606

特許ネオ浄化槽
辰巳興業株式会社
取締役社長　山崎敏明
神戸市生田区栄町通2丁目21番地
電話（078）321－0655（代）

東邦金属株式会社
取締役社長　家後修二郎
専務取締役　高畑董幸
大阪市東区北浜3丁目3（和光証券ビル）
電話大阪 06-202-3376（代）
支店：東京　工場：門司・寝屋川
モリブデン・タングステン
電気接点・超硬合金

CHUO
中央毛織株式会社
取締役社長　河野正通
名古屋市中区錦1丁目5番13号（日商岩井ビル）
郵便番号　460—91
電話（052）202—3571番